

## [66]文學研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/2339145>

---

出版情報：文學研究. 66, 1969-09-20. Faculty of Literature, Kyushu University  
バージョン：  
権利関係：

福  
田  
良  
輔  
先  
生  
小  
照



福田良輔教授略歴

明治三十七年四月二十八日 福岡県久留米市諏訪野町二二三八番地に生まれる。

大正十一年三月 福岡県立中学明善校卒業。

大正十五年三月 弘前高等学校文科甲類卒業。

昭和四年三月 京都帝国大学文学部国文学科卒業。

昭和四年四月 台北帝国大学助手に任ぜられ、文政学部国語学国文学第一講座勤務を命ぜられる。

昭和十五年十月 台北帝国大学助教授に任ぜられ、文政学部国語学国文学第一講座勤務を命ぜられる。

昭和十八年二月 台北帝国大学教授に任ぜられ、文政学部国語学国文学第一講座担任を命ぜられる。

る。

昭和十八年三月 一カ月の予定をもって中華民國に出張を命ぜられる。

昭和二十一年一月 昭和二十一年勅令第二八七号に依り退官。

昭和二十一年六月 九州帝国大学法文学部における国語学の講義を囑託せられる。

昭和二十三年四月 九州大学講師に任ぜられる。

昭和二十三年六月 九州大学助教授に任ぜられ、法文学部国文学講座勤務を命ぜられる。

昭和二十五年七月 九州大学教授に任ぜられ、文学部国文学講座担任を命ぜられる。

昭和二十八年四月

九州大学教授（文学部）に配置換えせられる（新制）。

大学院文学研究科指導教官を命ぜられる。

九州大学教授（文学部）に併任せられる（旧制）。

文学部国語学国文学第一講座担任を命ぜられる（新制）。

京都大学より文学博士の学位を授与せられる。

昭和三十七年三月  
昭和三十七年四月

九州大学文学部の併任を終了（旧制）。

昭和四十三年三月

停年により九州大学を退官する。

昭和四十三年四月

青山学院大学文学部教授の職に就き、現在に至る。

昭和四十三年四月

九州大学名誉教授の称号を授与せられる。

福田良輔教授講義題目

昭和二十一年度第二学期

国語表記史(特講)

国語学(演習)

昭和二十二年第一学期

国語学概論(講義)

枕草子(演習)

晩年の世話物(演習)

昭和二十二年度第二学期

国語学概論(講義)

万葉集卷二(演習)

昭和二十三年第一学期

国語史(講義)

万葉集(演習)

昭和二十三年第二学期

国語史(特講)

万葉集(演習)

昭和二十四年度第一学期

古事記の講述(特講)

源氏物語宇治十帖(演習)

日本文法

昭和二十四年度第二学期

古事記の構造(特講)

源氏物語宇治十帖(演習)

日本文法

昭和二十五年第一学期

伊勢物語(演習)

国語学概説(講義)

万葉集卷十四(演習)

昭和二十五年第二学期

国語学概説(講義)

万葉集卷十四 (演習)

伊勢物語 (演習)

昭和二十六年第一学期

古代国語の方言学的研究 (特講)

万葉集卷十四 (演習)

とりかへばや物語 (演習)

昭和二十六年第二学期

古代国語の方言学的研究 (特講)

万葉集卷十四 (演習)

とりかへばや物語 (演習)

昭和二十七年第一学期

国語学概説 (講義)

古事記 (演習)

落窪物語 (講読)

国語科教育法

昭和二十七年第二学期

国語学概論 (講義)

古事記 (演習)

落窪物語 (講読)

昭和二十八年第一学期

日本文法概論 (講義)

万葉集卷五 (演習)

和泉式部日記 (講読)

昭和二十八年第二学期

日本文法概論 (講義)

万葉集卷五 (演習)

和泉式部日記 (講読)

脚結抄 (演習)

昭和二十九年第一学期

国語史 (講義)

万葉集卷五 (演習)

江戸時代の古典学者の語法研究 (演習)

昭和二十九年第二学期

国語史 (講義)

万葉集卷五(演習)

江戸時代の古典学者の語法研究(演習)

あゆひ抄(特研)

昭和三十一年度第一学期

国語学概論(講義)

万葉集(演習)

国語史の諸問題(演習)

国語学(特研)

昭和三十年度第二学期

国語学概論(講義)

万葉集(演習)

国語史の諸問題(演習)

国語学(特研)

昭和三十一年度第一学期

国語学概論(講義)

万葉集(演習)

国語史の諸問題(演習)

国語学(特研)

昭和三十一年度第二学期

国語学概論(講義)

万葉集(演習)

国語史の諸問題・音韻(演習)

国語学(特研)

昭和三十二年度第一学期

日本古代社会における言語と文学(特講)

万葉集(演習)

古代日本語の音韻(演習)

国語学(特研)

昭和三十二年度第二学期

古代社会における言語と文学(特講)

万葉集(演習)

伊勢物語(演習)

国語学(特研)

昭和三十三年度第一学期

古代社会における言語と文学（講義）

万葉集（演習）

古代語の語法について（演習）

古代日本語の音韻（特研）

昭和三十三年度第二学期

国語学概論（講義）

万葉集（演習）

古代語の語構成について（特研）

昭和三十四年度第一学期

国語学概論（講義）

万葉集卷二十（演習）

古代語の語構成（演習）

昭和三十四年度第二学期

国語学概論（講義）

万葉集（演習）

古事記（演習）

昭和三十五年度第一学期

国語学概論（講義）

万葉集（演習）

国語学（特研）

昭和三十五年度第二学期

国語学概論（講義）

万葉集（演習）

国語学（特研）

昭和三十六年度第一学期

国語学概論（講義）

とりかへばや物語（演習）

万葉集卷十六（演習）

日本語の語彙（特研）

昭和三十六年度第二学期

国語学概論（講義）

万葉集卷十六（演習）

とりかへばや物語（演習）

日本語の語彙（特研）

昭和三十七年度第一学期

国語学概論(講義)

万葉集(演習)

とりかへばや物語(演習)

古代及び平安時代の語彙(特研)

昭和三十七年度第二学期

国語学概論(講義)

万葉集(演習)

とりかへばや物語(演習)

平安時代の語彙(特研)

昭和三十八年度第一学期

国語学概論(講義)

万葉集(演習)

とりかへばや物語(演習)

国語学(特研)

昭和三十八年度第二学期

国語学概論(講義)

万葉集(演習)

平安時代の歌謡・催馬楽(演習)

国語の変遷について(特研)

昭和三十九年度第一学期

国語学概論(講義)

万葉集(演習)

平安時代の歌謡(演習)

国語の変遷・中世(演習)

昭和三十九年度第二学期

国語学概論(講義)

万葉集(演習)

平安時代の歌謡(演習)

国語の変遷(演習)

昭和四十年年度第一学期

国語学概論(講義)

万葉集卷三(演習)

国語の変遷・中世(演習)

昭和四十年 度 第 二 学 期

国語学概論（講義）

万葉集卷十九（演習）

国語の変遷（演習）

昭和四十一年 度 第 一 学 期

国語学概論・文法

万葉集卷十九（演習）

国語の変遷（特研）

昭和四十一年 度 第 二 学 期

国語学概説（講義）

万葉集卷十九（演習）

国語の変遷（特研）

昭和四十二年 度 第 一 学 期

国語学概説（講義）

万葉集卷十九（演習）

中世古文書の国語学的研究（特研）

昭和四十二年 度 第 二 学 期

国語学概説（講義）

万葉集卷十九（演習）

中世古文書の国語学的研究（特研）

福田良輔教授研究著作目録

大伴家持の修辭研究	国語国文の研究二二号	昭和3年7月
勢語中の疑問の歌三首	言語と文学一輯	5・1
業平伝説化序説	言語と文学四輯	5・12
* 萬葉集卷四後人追加同歌作者考	—付卷三国歌大観番号四一一和歌作者考—	6・6
萬葉作者「今城王」考	国語国文二卷一〇号	7・10
源氏物語帯木卷冒頭の「さるは」に就いて	国語国文三卷六号	8・6
長沢伴雄の枕草子研究と一異本	愛書第二輯	9・7
* 書紀に見えてゐる「之」字について	台北帝国大学文政学部文学科研究年報第一輯	9・9
萬葉集の「之」字の訓について	『京都帝国大学国文学会二十五周年記念論文集』星野書店	9・11
二つの古事記頭書	文学三卷四号	10・4
* 伊勢物語の民謡性	国語国文六卷一号	11・1
王朝文化と伊勢物語	台北文学一卷六号	11・12
青年時代の長沢伴雄	愛書第八輯	12・1
神田本伊勢物語愚見抄に就いて	愛書第九輯	12・5
明治初期の国字問題について	—維新前後より明治十年まで—	12・12
	国語国文七卷二二号	

文脈中に於ける指示する語の語性転移について	—それはをめぐりて—	台大文学三卷三号	13・1
萬葉集用字法の借訓の用字意識について(上)	原生林		13・6
〃	(下) 原生林		13・6
* 法隆寺釈迦佛造記中に見えたる「鬼前大后」管見	台大文学四卷四号		14・9
上代に於ける「所」字の特殊の用法について	『安藤教授還曆祝賀記念論文集』		15・2
* 古今集の和歌の排列基準としての美意識	台湾(歌誌)		15・6
台湾国語問題覚え書	台大文学六卷三号		16・7
古事記表記の不統一について	台大文学七卷五号		18・3
* 古事記の「為」字	国語国文一六卷三号		22・4
奈良朝時代東国方言の成立について(上)	文学研究三七輯		23・12
〃	(中) 文学研究三八輯		24・12
〃	(下) 文学研究四〇輯		25・11
『校異略解 伊勢物語』	永田書店		25・7
奈良朝時代東国方言に関する諸問題—亀井孝氏・金田一博士の批判に答えつつ—	文学研究四二輯		26・11
国語の研究史	安藤正次編『国語の概説』 明治書院		27・4
東人と萬葉集の東歌	『萬葉集講座第四卷』 創元社		27・9
仮名字母より見たる萬葉集卷十四の成立過程について	萬葉五号		27・10

文の陳述性について 国語国文二一巻九号

\* 古事記の純漢文的構文の文章について 文学研究四四輯

\* 筑前国志賀白水郎歌十首の作者の複数性について 文学研究四六輯

A Study of the formation of the Eastern dialect in the Nara Era with special reference to its phonetic phenomena; STUDIES IN LITERATURE No. 2. (九州大学文学部紀要二巻)

古代語法存疑—エ列音の連体形— 文学研究四八輯

古代語法存疑—久語法について— 文学研究五〇輯

卷十四萬葉集訓詁 『萬葉集大成四訓詁篇』 平凡社

東歌の語法 『萬葉集大成六言語篇』 平凡社

古代日本語の或立過程—弥生式文化を土台とする社会変革との連関において— 国語学二一輯

\* 倭建の命は天皇か—古事記の用字法に即して— 語文研究三号

奈良時代東国方言とその基層語 国語国文二四巻一一号

奈良時代東国方言の周辺—言語基層・八丈島方言・補説— 文学研究五三輯

\* 志賀白水郎歌十首の歌謡性—憶良の単独創作説を疑ふ— 語文研究四・五合併号

奈良時代東国方言の音韻状態(一) 文学研究五六輯

東歌・防人歌の語法存疑—「降らる」「干さる」「等」「る」について— 『神田博士還暦記念書誌学論集』

原始日本語と文法 『日本文法講座3』 明治書院

東歌所出の人麿歌集の歌をめぐって 文学語学七号

古代日本語に現はれてゐる動詞型連用形の特異形について 文学研究五七輯

国語学にはどんな領域があるか 解釈と鑑賞二三巻

陳述の機能 『統日本文法講座1』 明治書院

萬葉集の解釈と文法上の問題点 『講座解釈と文法2』 明治書院

古代日本語における接尾辞「り」について 国語国文二七巻一一号

「ソダタキ・タタキ」管見 文芸と思想一八号

\* 「古事記」のシについて 萬葉三四号

萬葉集の解釈と文法上の問題点 『講座解釈と文法2』 明治書院

古代日本語における複語尾的四段活用「る」の一考察 文学研究五九輯

上代語 ―語源研究の基礎の上に― 文学語学一七号

中央語系日本語における音節結合―有坂法則について― 文学研究六〇輯

九州方言概説 『方言学講座巻四』 東京堂

\* 萬葉集の枕詞「霰零」「丸雪降」はアラレフリかアラレフルか 語文研究一三号

古代日本語の方言圏 解釈と鑑賞二七巻二号

上村孝二氏に答え再考を促す 国語学五一輯

表記法から見た萬葉集卷十四の成立について 文学研究六一輯

38 37 37 36 36 36 35 35 36 35 34 33 33 33 33 33 33 33

3 11 2 10 6 3 9 3 2 1 11 11 5 5 5 3 3 3

天平十年駿河国正税帳の防人数と東国方言 語文研究一六号

『古代語文ノート』 桜楓社

古代日本語における語構成と音節結合について 国語と国文学四一巻三号

上代における古代日本語の状態 — 日本における方言発生と奈良時代東国方言を中心に — 文学語学三一号

助動詞の機能 — 接尾語・複語尾・付属語形式 — 『国語文法講座2各論研究』 明治書院

『奈良時代東国方言の研究』 風間書房

古事記のホの仮名について 九州大学文学部『創立四十周年記念論文集』

東国語 解釈と鑑賞三一巻五号

『九州の万葉』共著 桜楓社

ア列音の活用機能とク語法 文学研究六五輯

上代の国語 『講座日本文学1上代編1』 三省堂

\* 印は『古代語文ノート』収載論文

43	43	42	41	41	40	40	39	39	38
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
11	3	6	5	1	6	4	3	2	6